

第4回 池田市地域福祉計画策定委員会・
池田市地域福祉活動推進計画策定委員会

(議事要旨)

日時：令和5年1月23日（月）午後2時～4時

場所：池田市役所 5F 府大会議室

議 事 録

1. 会議の名称	池田市地域福祉計画策定委員会・池田市地域福祉活動推進計画策定委員会
2. 開催日時	令和5年1月23日（月） 開会：午後2時　　閉会：午後4時
3. 開催場所	池田市役所 5F 府大会議室
4. 出席者	《委員》11名 ※会長：◎、副会長：○ ◎松端委員、○西田委員、永山委員、和佐委員、藤本委員、名村委員、松山委員、藤田委員、糸賀委員、松井委員、綿谷委員 ※欠席者：4名 永田委員、永棟委員、村田委員、島田委員、藤岡委員 《合同事務局》4名 池田市 福祉部 高齢者政策推進室 高齢・福祉総務課 楠田課長、上田副主幹、増田主任主事 池田市社会福祉協議会 事務局 茂籠局長、地域福祉課 南野課長、貝原主任主事
5. 議題	1. 池田市地域福祉活動推進計画における地区活動計画案について 2. パブリックコメントの結果について 3. 第4期池田市地域福祉計画・第5次池田市地域福祉活動推進計画案について 4. その他
6. 議事経過	別紙
7. 配付資料	・資料1 池田市地域福祉計画・池田市地域福祉活動推進計画策定委員会委員名簿 ・資料2 パブリックコメントの結果について ・資料3 第4期池田市地域福祉計画・第5次池田市地域福祉活動推進計画案 ・資料4 第4期池田市地域福祉計画・第5次池田市地域福祉活動推進計画案（概要）案
8. 傍聴者	1名
9. 問合せ先	池田市 福祉部 高齢者政策推進室 高齢・福祉総務課 072-752-1111 内線323 072-754-6123（ダイヤルイン） Mail：fukushi@city.ikeda.osaka.jp

第4回 池田市地域福祉計画策定委員会・
池田市地域福祉活動推進計画策定委員会 議事録（議事録原文）

1. 開会
2. 新委員紹介
3. 資料確認
4. 議事

1. 池田市地域福祉活動推進計画における地区活動計画案について

<会長>

案件1番からお願いします。

- ・社会福祉協議会より資料3に基づき説明の後、質疑応答

<会長>

計画案の資料編に、各地区の活動計画が掲載されている。地域福祉の性格は、ひとつは市が法律に基づいて策定する地域福祉計画であり、こちらは第4期になる。もうひとつ、池田市の地域福祉活動推進計画は、法律に定められているわけではないが、社会福祉協議会が中心になって進める計画である。池田市は11の小学校区があり、昨年春から夏にかけて住民懇談会を開催した。それを踏まえて、各地区の活動計画がまとめられており、その全体についてのお話をいただいた。

ということで、いかがか。みなさんの中に参加された方もいらっしゃるのではないか。

共通していることは「つながり」「挨拶をちゃんとしなくちゃいけない」ということや、「日々の住民同士のつながりをもう一度確認しましょう。」ということである。とはいえ、担い手が高齢化している。どこかの地区の子育てサークルで「子育てサークルをやっており、30年ほど代表をしている。30代くらいの若い人たちに世代交代できればよいが、高齢化してしまっている。高齢化もあり、活動はそんなに広がっていない。どうしたらいいか。」そこで、情報提供のあり方が問題となる。懇談会で良かった点は、今まであまり接したこと

がなかった人たちが懇談会で知り合いになったということ。お互いにそれぞれが精力的に活動していても、それほど交流があるわけではない。こういった場で交流し、意見を交わす。このような場をプラットフォームと言うが、交わる場を地域で設定することが重要である。いかがか。

<委員>

私は石橋地域コミュニティ推進協議会の代表である。コミュニティ推進協議会は、「自分たちのまちは自分でつくろう」を合言葉に自主的・自立的にまちづくりを行うことで、地域内の共通課題の解決を図り、市との協働でまちづくりを進めていこうという分館型社会の最終目標を掲げた地域分権制度のもと、平成20年度に設立された。

市民が自主的・自立的にまちづくりを実施できる環境を整備し、同時に個性の満ちた地域社会を実現させるということでこの制度はできている。石橋地域では、地域防災制度や子どもたちの見守り、そして福祉で今一番課題となっている避難行動要支援、キッズランドの支援、子ども、親、高齢者の三世代にわたる活動を行っている。市民レベルの運動会では、昨年度は600人の参加者があった。そして、地域の納涼大会は約1,000人の方に参加いただいて、石橋では各種団体間の摩擦もなくすべて今のところうまくいっているということを報告しておく。

<会長>

地域分権でいうと地域コミュニティ推進協議会ですか。池田市の特徴は再三いっていますが、自治会加入率が約28%と府内で一番低い。全国的にみても低い。先日訪れた寝屋川市は、自治会加入率は約85%で府内トップクラス。池田市では地縁組織に頼るのはしんどい。自治会はメンバーシップ、参加の意志があって加入するもの。今後、自治会加入率はどんどん減少していく。ある意味では、池田市は先駆的。

住民懇談会にいくつか参加したが、非常に活発であった。参加者がスマートに議論をしており、それは池田市のポテンシャルかなと感じた。そのすそ野を広げられたらよい。石橋であれば阪大があり、学生を巻き込むことができれば面白い。単発のボランティアはあるが、継続しない。たとえば、災害ボランティアでは災害が発生した時に、要支援者の名簿があり、Aさんを誰が助けに行くかの場合に、学生を組み込む。学生は、夕方からアルバイトをするかもしれないが、昼間であれば時間がとれる。学生を組み込んで新たな展開につなげていくことができる。

ほかにはいかがか。特になければ、次の議題について説明をお願いします。

2. パブリックコメントの結果について

- ・市より資料2に基づき説明の後、質疑応答

<会長>

今回は1件だったが、30件という活発なところもある。ただ、普通はなかなか意見が出ない。池田市の場合は、策定委員会や懇談会で意見を出せているため、パブリックコメントでは意見を出さないという方もいらっしゃると思う。

「働く世代に福祉を。」というご意見だが、これは日本全国の問題で、少子高齢化が進み、出生数が80万人を切るのではないかとされている。働いている世代が晩婚か非婚の傾向が強く、少子化に歯止めがかかっていない。まずは、働いている世代がしっかりと生活できるようにしないといけない。阪神間で見ると、明石市は人口、出生数が増えている。人口でいうと、子どもは夫婦から生まれるので、人口は2人生まないと日本社会の人口が維持できない。そのため、子どもが2人・3人いる社会は凄いい。明石市は実現していて、全国でもそういうまちがち散見される。その意味では、池田市も立地条件はとても良く、上手く噛み合うと、子どもを生みやすく育てやすいまちとなり人気ができるかもしれない。その時には、若い世代が暮らしやすくなる。走りながら、考えながら進むことになると思うが、市としてはそのことを踏まえておく必要がある。

よろしいか。それでは次の案件について、説明をお願いします。

3. 第4期池田市地域福祉計画・第5次池田市地域福祉活動推進計画案について

- ・市より資料3、資料4に基づき説明の後、質疑応答

<会長>

行政計画はフォーマルなものだが、本計画は柔らかい感じで、市民に手にとってみてもらえるものとなっています。概要版もそう。冒頭に地域福祉の話があり、3ページに課題、4ページに基本目標がある。「おたがいさま」というフレーズが良い。助けたり助けられたり、そういう関係が必要。

そして3つの基本目標があります。包括的支援体制の構築は、全国的に進められている施策のひとつ。次が地域づくり、そして人づくり。5、6ページがその包括的支援体制、7、8ページが地域づくり、9、10ページが人づくりで、次の11ページが先ほど説明のあった各地区の取組。掲載しているQRコードを読みとると、社会福祉協議会のホームページに遷移する。これは良い。そして、推進体制となっている。

いかがか。

<委員>

意見というより感想。色味が柔らかくて非常に読みやすい。前回の委員会で「アウトリーチ」という言葉が誰でも分かるのかという意見を出したが、読んだ人が「この言葉は何か」「この団体は何か」と思った時に参考にできるように、解説が計画書の末尾にあり、非常に親切な計画だと感じた。

少し戻って、資料2のパブリックコメントについて、最後の2行に「ただ職場と家の往復、自宅内で誰とも口を利かず働いていて1日を過ごす日々を手を差しのべてください。」とあり、切実な思いが書いてある。計画書にも記載してあるとおりに、こういう方に相談支援を実施して欲しいと思う。

<会長>

用語説明は分かりやすい。また、パブリックコメントの意見は切実なもの。「ただ職場と家の往復、自宅内で誰とも口を利かず、働いていて1日を過ごす」だけなので。現にこのような方がおられるが、どうしていくか。包括的支援体制でいうと、QRコードを読み取ると相談先につながるような仕掛けがあってもいいかもしれない。

<委員>

そういう方を代表する言葉はどのようなものか。概要版の話になるが、1ページの記載内容に合致する方はいるが、今回のケースではどのような言葉になるのか。生活困窮とあるが、これはどの年代の人にも当てはまり、自分発信の言葉として「しんどいな」ということができる。2ページでは、周りの人の話となり主体が変わっている。1ページは当事者、2ページは手を差しのべる主体。私は障がい者団体に所属しているが、1ページ下部をみると、地域福祉計画の説明のところに「高齢者、障がい者」とあり、私の団体はここに当てはまるが、パブリックコメントのような、悩みのある壮年期の方を指す言葉がないため、その言葉を記載すると良いと思う。

そして、障がい者団体が、困ってある4つのどの言葉に該当するのか分かりづらい。下部に「障がい者」とあるため、そういうことだろうと思っているが、「8050問題、ダブルケア」などの言葉を目にされる方たちが、理解し受けとめていただけるかなど。パブリックコメントで出てきた方を表す表現を、地域福祉計画のところに表せないかと感じた。

<会長>

このしんどい思いをしているパブリックコメントの方が、この計画のどこに該当するかという問題ですが、もっと分かりやすく表現するほうがよいという

ことか。

<委員>

そのとおり。8050問題、ダブルケア、ひきこもりは「こういう状態の方です。」など、どの年代にも当てはまるため想像することができるが、パブリックコメントであがっているような方を表現するような言葉があればと思う。ひきこもりでもなく、困窮者でもなく。

<会長>

社会的孤立に近いが、働いている。強いて言えば、孤独か。寂しいとか、しんどいとか感じている人をどこに入れたらよいか。社協の意見をお伺いしたい。

<事務局>

地域福祉とは、カテゴリーをしないというところからスタートしている。カテゴライズするとどうしても隙間ができて、その隙間に落ちる人が出てくるため、それはやめましょうと。一人ひとりを大切にするという感覚で、地域で安心して暮らせるようにしたらいいね、というところがスタート。そのため、カテゴライズするのはやめておきましょうということになる。ただ、そういった方がこの計画を読んだ時に、自分のこととして理解するにはどうしたらよいかという重要な指摘であると認識。誰もが関わることができる、支援している人も、みんなに支えられているという双方向性を文章から出せたらよいかと考える。

概要版の左側が支えられる人、右側が支える人となっているが、左側の人も支える人、右側の人も支えられる人になっていいという感覚を、この誌面から出せたらよいかと考える。

<会長>

カテゴリーを持ち出すと必ず漏れてしまう。支え合いは、左側と右側は循環ではないか。こういう方が計画書を読んだ時に連絡できるような一覧があればよいか。どこか一か所という発想ではない。市役所、社協というわけではないが、どこかが連絡を受けて連携しながら支援するイメージ。どうすればよいか。

<事務局>

先ほどの説明にもあったが、カテゴライズはしないとはいうものの、計画書の72ページでは世代別に考えた。「壮年期」を入れたのが今回の計画の新しいところと理解しているが、パブリックコメントの方はこれに該当すると考える。こういう方がどこにも居場所がなく、能力を発揮する場所がないような時、地

域に力を還元していただき、壮年期の方の生活パターンにあった居場所をつかっていこうと考えている。

ここには支える人と記載しているが、支える人として関わることで仲間が増えたり、やりがいを感じたりして支えられるということを考えているところ。こうした取組を少しずつ進めていくことで、こうした方に関わっていただけるような部分を情報発信していけるようにしていきたい。

<会長>

どうすべきか。児童虐待であれば、「いち早く」というイメージ。

<事務局>

窓口という形ではないが、地区福祉委員会においても、誰でも関わってもらえるよう多世代交流の居場所をつくり始めている。社協のボランティアセンターや公益活動促進協議会においても、働く世代が気軽に相談に来てもらったり、自分の能力を発揮できる場所を探していただいたりできる部分なので、必ずしも悩み相談だけではなく、居場所、接点をもつていただく場などいろいろな居場所を探すようなところであるため「相談窓口」とするとかえってハードルが上がってしまうこともある。

<会長>

ニーズとしていえば居場所ということか。

<事務局>

そのとおり。居場所や社会とつながることができるということだと考える。

<会長>

家があって、職場があって、それ以外の何かしてほしいということ。

<事務局>

パブリックコメントのような方や、委員の方にあげていただいた意見のような方を我々も意識して情報発信をする必要がある。そういう人たちも関わっていいというようなことを、あえて記載する。

<会長>

パブリックコメントの方は、今までの福祉では対象ではなかった。家もあり、仕事もあり、でも何かを必要としている。こうした人が社会と関わることができるようなもの。それがこの方に届いて、自分も何か関わってみようかと、こ

ちらからもおいでといえるかどうか。

<事務局>

概要版の10ページのあたりで、住民として何ができるかというあたりを読んでいただき、「関心のあることやもっている知識、経験を地域活動に活かしましょう」「壮年期世代、シニア層に対して、活動への参加や協力を働きかけましょう」と記載してあるところで、読んでいる方に地域活動に関わっていただきたいと思っていると感じていただきたい。

<会長>

この人は何か支援が必要というわけではないか。

<事務局>

人との関わりがほしいということ考える。

<会長>

そういう方に届く内容になるとよい。この方が10ページを読んで、自分が関わっていいのだと思っていただき、視野を広げればいろいろあることに気付くということか。

<事務局>

そういった思いで、今回「壮年期」について掲載した。

<会長>

こういった方は今まで福祉の対象になっていなかったが、これからはこういった人を含めて暮らしやすい池田市にしていこうということ。

<委員>

この方は池田で仕事をされていて、広報誌も目を通されたことがあると思う。その中でそうしたことに一切関わってこなかった人。パブリックコメントの担当の方がこの方に電話すれば、この方は「市役所の方が自分の意見をちゃんと聞いてくれた」と思い、その時に「こんな活動がある」というようなことを伝えていただければいいと思う。電話することが重要なのではなく、この方が「市の人は自分のパブリックコメントを読んでくれている」と思ってもらうことで十分かと。

<会長>

この方について把握しているのか。

<事務局>

把握している。

<会長>

であれば、「どうもありがとうございました。」と伝え、その際にこんな活動が近くにあります、顔を出してみてください」と伝えるのはどうか。困っているのは明らか。困っているのを知っているのにスルーするのではなく、せつかなので何かした方がよいのでは。

<委員>

このパブリックコメントをいただいた方と私は合致すると思う。働いていて、子育てしていて、コミュニティの活動にはなかなか参加できず、関わって同じ境遇のお母さんたちとの輪が欲しいけれど、なかなか居場所がない。なかなか同じ境遇の人に出会う機会がなく、コロナ禍でさらに機会が減ってしまっているのではないかなと思う。「年齢を超えた」とあるが、この方には同じような境遇で、軽い悩みなどもできるような居場所をつくってあげられたらいいのかなと思う。

<会長>

ちょっと話をするだけでもよい。

<委員>

ボランティア活動をしたいが、活動に至るまでの流れが分からない。とっかりの部分、次に地域でどんなことをしているか学ばなければいけない。自分が実際にそこに入ると、これが活動だなと実感し初めて自分が役に立つというやりがいが見つけられる。

そのあたりのとっかかりや選択肢をつくってあげる。そのプロセスを記載するのがよいと考える。

<会長>

この方を例にして、例えばこのパブリックコメントでしたら「毎日働いていて、虚しい」とあり、「楽しく話す場を設けていただければ」とあるので、こういう方にはこんなものがありますよと示せばよいか。確かに、相談窓口の話ではない。地区活動計画のQRコードを読み取り計画を読むことで、自分も参

加しようとはならない。だとすれば、72ページの内容が当てはまるか。

<事務局>

意見にもあったように、カテゴライズしないということは一人ひとりが主役ということ。その人を把握しているのであれば、今からでもアプローチし、ぴったりのことをしていくというのが私たちの仕事であると考え。一般化する前に、この意見をくれた人をどうするかということが大事と考えた。そのあたりのことも検討する。

<会長>

そのとおり。具体的に考えることが重要。ただ、他にもこういう方がいるわけで、そういった人をどこかで吸い上げられたらよい。働いているだけで生活に張りがない、虚しい、しんどいなど感じていて、誰かと話がしたい、関わりたいという人がいれば、そのような人に向けてのメッセージがあるとよい。難しいが、何か盛り込めたらよい。

そのほか、いかがか。

<委員>

気づいたことでもよいか。内容でなく、私の理解が浅いがための気付きかもしれない。21ページの図で、目標1のところは色が重なっているのに、目標2のところは重なっていない。

タイトルのつけ方について。18ページのタイトルのつけ方、「池田市がめざす包括的な支援体制」は目標1に対するタイトルか。違うということであれば、自分の気付きが浅いからだと思う。

「空いているところには写真を入れています。」と説明があり、ここには写真が掲載されると分かったが、29ページ、50ページ、53ページ、72ページとかのタイトルが「目標～取組～」がついていたりいなかったりで、私の気づきの浅さから一貫してないのではないかと思った。でも、あえてそういうことなのかということをお願いしたい。

<事務局>

18ページのタイトルについて、これは基本目標の1～3すべてを含めたイメージ図ということで、他の「目標～」のような形になっていない。他はそれぞれの「目標～」の図になっているため、それに合わせてタイトルをつけている。

<委員>

今日は初めてのうえに、最終段階で参加ではあるが、長い間社協とも仕事をし、現場を見てきたものとして申し上る。結局、今回の計画のメインは包括的支援体制づくり、つながり支え合う地域づくり、福祉を支える人づくりということで、この3つを足し合うところで、いろんなことが関わり合って、いろんなことをやっていきたいと思います。それに肉付けをしていったのだろうと理解したが、不安なのは、ある家庭の問題に気付いた時の相談窓口という話が先ほどあったが、よりシビアな問題を受けとめた時、その問題を受けとめる相談窓口が必要かと思った。

例えば、先程のパブリックコメントのような、向こうから発信してくるレベルと向こうから発信できず、こちらから関わらないといけないような状態のレベルでは違うと思う。そういう時に「支えてあげたい、サポートしてあげたい、助けてあげたい。」と思った時に、実際どこの相談窓口に連絡すればいいかこの計画を読んで分かるのだろうかかと危惧した。例えば、警察や消防であればすぐに連絡先が分かると思う。地域福祉においても、本当に助けてあげたいと思った時の連絡先があれば助かるのではないかと思った。「相談しましょう。」と言われても、どこに連絡すればよいのかと思うし、そのあたりが意外と忘れられている気がする。良い計画になるほど、そこからこぼれる人が出てくるため、その人たちを本当にサポートしたいと思った時の連絡先があればよいのではないかと思った。

<会長>

イメージでいうと、どんな人が来ても受けとめる。例えば経済的に困っている人がきて、生活保護で対応できるのであればそれでよいが、加えて活動する場所がないといった時に、いろいろな関係者が協議し、適切な支援につないでいきたいと思いますということ。オールマイティに何でもこなせる人がいるとうイメージではない。

それでいえば、31、34ページに「いけだ〇〇〇プラットフォーム」がある。この「いけだ〇〇〇プラットフォーム」の「〇〇〇」は現時点で仮なので、何かつけたらどうか。

<事務局>

会長の意見に対する回答として、その件は直前にも議論があったが、名前をつけるところからみんなに関わりたいなという思いがある。関心と興味、「わが事」感を持ってもらうため、あえて「〇〇〇」としている。

また、委員に対する回答として、委員のご意見は去年のワーキングでもずっと議論されていた。一元的に相談を受けとめて関係するところに振るパターン

にするのか、いろんな相談窓口が関係機関にも地域にもたくさんあり、そうしたところで一旦受けとめるのか、池田市ではどちらがよいかずっと議論があった。最終的には、なんでも相談は受けとめる側が疲弊してしまうとなった。どうしようもない問題を受け、どこに相談しても引き受けるところがなく、問題を抱えたままになるというしんどさがあったので、この計画では、支えられる市民も相談でき、支える専門職も孤立させないということになった。お答えでいうと、一番身近にある相談窓口に一旦持ち込んでいただくということを書いている。一元化というのはあえてせず、どこの相談窓口でも専門職が関係者と協議するというスタンスでいこうと今のところは結論づけている。

<会長>

「〇〇〇」はこれから考えるということですか。17、22ページあたりで、どこでも受けとめるネットワーク、協働して対応しますというようなものがあるとよい。

<事務局>

委員のご意見を受け、改めて読むとはっきり書いてないなと感じた。もう少しはっきり書くべきだった。

<委員>

はっきり書いた方がいいと思う。

<会長>

「どこでも相談してください、相談の内容は窓口で受けとめるけれども、吸い上げて対応についてはみんなで話します。」というイメージか。委員の言うとおりに、1カ所で受けとめるという議論もあり、全国でもなんでも相談部署を置いているところがありますが、疲弊してしまう。困っている人からも支援者からも相談がある。困難ケースについて、受けとめた側が引き受けることになってしまっている。全国的にはこのような実態がある。考え方は分かりやすいが、実際やるとうまくいかないことが明らか。専門の職員がいて、みんなで対応するとしても、その職員がもたない。そのため、いろいろなところで相談を受けて話し合い、必要な支援をみんなで考えていくというスタイル。

ということで、「いけだ〇〇〇プラットフォーム」が重要。強いて言うならば、問題を「いけだ〇〇〇プラットフォーム」で受けとめるということか。

<事務局>

それもある。

<会長>

「『〇〇〇』をみんなで考えましょう。」というようなことをどこかに記載すればよいのでは。「仮」とつくと、仮で何かがつく。例えば、「いけだウォンバットプラットフォーム」など。それを一緒に考えましょうということ。スーパーバイザーがいて対応するというより、それぞれの持ち場で、それぞれの力を発揮して、みんなで対応するというイメージ。

そのほか、いかかが。それでは、委員のみなさまに一言ずつ感想をお願いします。

<委員>

表紙の「一人ひとりを大切に『おたがいさま』でつながる 池田」というキャッチフレーズが非常に気に入っている。「おたがいさま」というのは分かりやすく良い言葉。「つながる」という言葉は、計画書でも多く記載されている。「つながる」ということは重要で、池田市在住の宗教学者で、相愛大学学長の方がNHKで「つながりは人に生きる力を与える」と話していた。つながることが人をいきいきさせる。この計画でも「つながる」ことを大事にする方向性であるため、絵に書いた餅とならないよう是非とも実現していただきたい。

<委員>

公募委員として参加させていただき感謝する。公募委員としては、2回目の参加となります。以前は、自殺防止対策委員会の委員。その時にも感じたが、市の担当者や専門家との意見交換において、私の会社での経験や知見を述べさせていただき、それが計画に反映され、とてもやりがいを感じ、いい経験をさせていただいた。

<委員>

社協の第4次計画策定の時も関わらせていただき、その時はピンときていなかったが、実際の活動の現場を見ている中で理解が深まった。地域活動に参加しないというのが30%くらいいた。実際にやっている人が1%くらい。地域で一緒に何かをやるという人がだんだん減っている。活動に勧誘すると、「ゴルフはありますか。カラオケはありますか。」など、趣味の話になる。ボランティアをやりませんかと言うと、ボランティアはやりませんと言われる。地域活動が減ってきているため、壮年期や若い世代向けに、リタイアする前から会社などに働きかけをして、リタイア後の地域活動への関心が沸くような研修をしてはどうか。市や社協がパフォーマンスをし、やりがいがあることを伝える。何かやりたいと考えているが、どうやってやればよいか分からない人にモデルを提示する。池田市は11地区あり、それぞれ違いがあると思う。地域の事情に合

わせて提示する。そんな仕掛けができたらいいと思う

やりがいにもいろいろある。ボランティアもやはり無償ではない。有償性のことも考えた方がよい。やりがいを得ることで、自分が健康になり、経験も活かせる。そして形のあるものでやりがいを感じることもできる。策定委員として携わらせていただき感謝する。

<委員>

素晴らしい計画を作ってください感謝する。池田市においても、人口が増えていないと聞いている。やはり、団塊世代を支える現役世代、40代・50代のキーパーソン、小学生くらいまでの福祉サービスはあるが、キーパーソンに対するサポートができればもっといい計画になるかと思うため、よろしく願います。

<委員>

児童福祉の委員がいないということで、参加させていただいた。池田市は子育てのまちのイメージがあるが、就学前の施策の各論に入ると充実していない。子育てが充実していると聞いて引っ越してきたのに違ったという声を耳にする。今後は、つながりを重視するということで、子育てサポートが充実したまちにしていきたい。

また、私は宮司も兼ねており、最近聞くのは、会社勤めで池田市を離れた息子が定年を迎えても戻ってこないケース。町会も減ってきている。ただ、池田市は北摂で、人口流入もあるはず。そういった人をどう取り込んでいくかで良い計画になると思う。

<委員>

大した計画である。「つながる」ことは大事だと思っているが、今「つながる」ことから逃げる人が大勢いる。我々の団体も上から末端の下部組織までどのように浸透させるかが課題となっています。池田市にこんな計画があるということを末端まで知らせることは難しいが、善処する。

<委員>

実は私も定年を迎えてから、ここにいる民生委員のお二人にお世話になった。この先どうしようと悩んでいたところ、「市役所に相談したらどうか。」ということ聞き、相談した。相談窓口に出向き、相談内容の分かる職員に来ていただき、的確なアドバイスをいただいた。池田市は素晴らしいなと思った。これからどうするかということに対して、コミュニティ推進協議会があるから、そこで活動してみないかと言われ、お手伝いを、コミュニティ推進協議会は素

晴らしいと感じ、現在では会長をやらせていただいている。

<委員>

障がい者団体からの参加である。ワーキングから参加させていただき、非常に良かったと思っている。この委員会にも参加させていただいて良かった。参加していなければ、計画を読む機会もなかったと思うが、何とか読ませていただいて、この活動の旗振り是谁かとか、同じ人が旗振りをしているのでないかとか考えながら読んだ。そして、計画が優しさにあふれていると感じた。「つながり」は大切であるということ、私の団体でも広げていく。このような貴重な機会をいただき感謝する。

<委員>

今回の計画は市と社協が一体的に策定する初めての計画。2年間をかけてたくさんの方に関わっていただき、多くの意見をいただいた。委員のみなさまをはじめ、庁内委員会、関係機関・団体、ワーキングでは住民や福祉委員、アンケートでは市民、住民懇談会など大変多くの人に関わっていただいた。今後は実行に移していく重責を感じているが、社協や関係機関と協力し、基本理念の実現に努める所存。策定委員として携わらせていただき感謝する。

<会長>

計画は今後修正が入るが、事務局と私に一任いただきたい。

計画づくりについては、池田市に関わらせていただいたのは今回が初めて。印象としては、住民懇談会も策定委員会もそうだが、とってもスマートなところ。府内であれば、こてこての大阪感がない。そして、条件的に有利だと思う。条件的に不利というのは、例えば、河内長野市は面積が広く、人口が減少しており、高齢化率が高い。北摂の中でも、池田市は能勢町や豊能町と比べても、面積もそうだが、人口も極端に減っていない。将来的には、全国と同様減っていくが極端には減らない。地域福祉の推進にとっては有利な条件。自治会加入率は低いが、地域活動が盛んであるところがポテンシャル。この計画を通じて新しい仕組みを入れたが、これがどう動くかだと思う。本当に子育てしやすい、暮らしやすいまちになるのか。子育てしやすいイメージはある。若い世代が多い。良い条件が揃っているので、学生との連携など、この条件を活かせれば本当に暮らしやすいまちになると思う。

いろいろなところに行ったが、池田市は大阪感、大阪のおばちゃん感がない。川西市や泉州地域は人懐っこく、本当にポケットに飴が入っている。「ようきたな」というような、ざっくばらんな感じが池田市にはなくスマート。その分、エネルギーが表に出にくいのかもしれない。具体的な活動を積み上げていくこ

とが大切。

地区活動計画も目標を定めて、「こんなだったらいいな。」というのがよいと思う。市の計画、社協の計画、地区の計画が1つになっているのは画期的。これを見て、地域福祉活動への参加者が増えればよい。地域福祉のバイブルとなり、これに従って地域福祉が推進されているのだと思っていただけるようになってもらいたい。

<事務局>

欠席している2名の委員から事前にいただいているコメントを報告する。

【委員】

計画策定に携わったみなさまに感謝申し上げます。多岐にわたり膨大で、緻密で申し分ない計画である。この計画は、誰一人取り残されることなく、すべての人が大切にされることが前提として推進すると掲げられており、一人でも多くの市民に対して福祉に関する情報の共有が肝要か。本書の57ページ、誰もが住み良い環境の整備の中の、福祉に関する情報の共有で、市の取組は広報いけだやパンフレットやガイドブック、ホームページなどそのほかSNSの活用をされているとのことだが、現在は情報化社会であることや市民の多くが携帯、スマホを所有していることを考えると、前述したPRのツールに加え、池田市福祉アプリ（仮称）を新規に計画されてはいかがか。このアプリに計画の内容をすべて網羅しておき、池田市民であれば誰でもアプリを導入してアクセスすることができれば、誰一人取り残されることなく、すべての人が大切にされることも可能になるのではないかと思う。

【委員】

計画策定にあたり、制度や分野の縦割りや市民と行政側という関係を越えて、市民と池田市、社会福祉協議会が連携し、社会情勢の変化や地域福祉に関する市・社協の状況、市民や関係団体・機関等のニーズを踏まえ、計画を策定された。これは、令和10年以降もつなげる計画を策定されたことと思う。今回、策定委員として参加させていただき感謝するとともに、池田市のますますの発展を祈念している。

<事務局>

委員のみなさまに感謝申し上げます。それでは、最後に今後の流れをご説明する。計画については、市において決定をし、その後印刷を行い、3月の末ごろに公表させていただく。計画書が出来上がったら、委員のみなさまに送付させていただく。それでは、以上をもって「第4回池田市地域福祉計画・池田市地

域福祉活動推進計画策定委員会」を閉会させていただく。慎重審議に感謝申し上げます。引き続き、地域福祉の推進にご協力よろしく願います。

5. 閉会

以上